

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700234		
法人名	株式会社 ヤマショー		
事業所名	グループホーム絆		
所在地	青森県三戸郡南部町大字斗賀字沼田71-1		
自己評価作成日	令和4年11月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和元年8月より事業を開始しております。 アットホームな雰囲気、楽しく生活できるように支援しております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍ではあるが、運営推進会議に地域住民3名、地域密着型サービスに知見のある方が参加する等、地域の協力を得ている。 毎月、家族に送付する便りは細やかな項目を記入しており、暮らしの様子がよくわかり、行事等の写真も添えられるので、一緒に支え合う関係作りとなっている。 また、1ヶ月ほど入院し、おむつ使用状態で退院した利用者支援して、トイレで排泄できるようになった他、利用者の声に耳を傾けて、コロナ感染に配慮しながら外出支援を行う等、日々の支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で理念を共有するため、事務所へ理念を掲示し、日々のサービスにつなげている。	「笑顔が続く生きがいづくりに努めます。誰のためのケアなのか考え行動します。」を理念に掲げている。事務室へ掲示し、職員会議でも確認する等、職員が共有して、日々のケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行前は、町や地域の行事に参加していたが、コロナ禍のため、町や地域の行事等に参加できていない。	コロナ禍のため地域との交流が難しい状況であるが町内会に加入している他、運営推進会議に町内会長や地域住民が参加している。協力を得ている。コロナ禍前は祭り等の地域行事に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の方にも参加していただき、認知症の方の支援について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回、新型コロナウイルス感染状況に応じて、対面や書面にて行っている。毎月生活状況や行事写真等を報告し、意見をいただいている。また、自己評価・外部評価結果も報告し、今後のサービス向上につなげている。	運営推進会議は町内会長や地域住民、家族、役場職員等がメンバーとなっており、で2ヶ月毎に開催していたが、コロナ禍になってからは書面で開催し、ホームの状況や行事、研修内容等を報告して意見をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町職員が運営推進会議に参加され、毎月生活状況や行事写真等を報告して、意見をいただいている。また、相談等、随時連絡して助言をいただいている。	町役場職員が運営推進会議に参加し、意見や情報をいただいたり、電話やメール等で相談する等、連携を図っている。町のホームページにホームの空き情報や利用料金を載せる等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の開催、研修を通じて、職員間で理解を図っている。	身体拘束委員会を開催したり、職員会議でも学ぶ等、身体拘束について理解を深め、身体拘束を行わない姿勢で取り組んでいる。また、やむを得ず行う場合に備えて、記録を残す体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行って全職員が理解し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面、口頭にて説明し、ご家族様から話を伺い、同意を得て、署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、面会時や電話連絡時に伺うようにしている。	家族面会時や電話連絡時等に、意見を聞いている。また、運営推進会議に参加する等、外部に意見を言える機会がある。毎月、生活状況や行事の写真を添えて、家族に利用者の暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見等を聞く機会を設けている。	毎月、職員会議を開催している。事務連絡や業務内容、ケアの検討、勉強会、意見交換を行っている。また、理念の「誰のためのケアなのか」についても話し合いを行う等、密な内容の会議を開催している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況に配慮し、公休勤務体系等を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に積極的に参加できるように支援し、資格取得や研修費用も負担して、スキルアップにつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため開催は減ったが、グループホームネットワーク会議に参加し、情報交換や勉強会等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集し、ご本人様の不安や要望等を伺い、観察しながら、安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にお話を伺っている他、都度、電話連絡時等にコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前にお話を伺い、その時に必要なサービスを提供し、状況の変化に応じたサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活での個々の能力を見ながら、洗濯物置みや食器・お盆拭き等のお手伝い等、職員と一緒に作業を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、生活状況について写真付きで様子を報告しており、面会時にも伝えている。また、状況変化や必要時には電話連絡し、一緒に支え合う関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族・親戚から電話があった時にはつなぎ、面会時は感染症対策のため、自動ドア越しで距離を取って実施している。	利用者の生活歴等から、馴染みの人や場所等を把握している。コロナ禍の現在は、窓越しでの面会を実施している他、年末年始に自宅に帰り、家族と一緒に過ごした利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係で生活できるよう、必要に応じて職員が間に入り、支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等、契約終了時は情報提供を行い、ご家族様からの相談にも対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から入居者様の言動を観察し、会議にて情報共有に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	家族からの情報や普段の言動を観察し、利用者の希望や意向等を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや生活状況の聞き取りをしている。入居後も普段の会話や必要に応じてご家族様に連絡し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や食事・水分量、排泄を記録し、個々の心身状態を把握している。経過記録や申し送りに記入し、情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者様やご家族様の意向を聞き、ケア会議の情報を反映して介護計画を作成している。	利用者の思いや家族の要望を聞き、職員の気づき等も話し合い、ケア会議で検討の上、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の様子を記録している。情報を共有し、ケアや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を利用し、必要時には病院受診を行っている。また、歯科往診も利用して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長が参加している。消防署の協力のもと防災訓練を行い、火災時には地域の消防団の協力を得られるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、かかりつけ医の訪問診療を受けている。また、訪問診療を受けられない入居者様は、ご家族様対応や職員で対応している。	これまでのかかりつけ医を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診している他、訪問診療も可能な体制である。また、隣接する施設の看護師から、健康管理の協力を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する有料老人ホームの看護師の協力のもと、医療機関と連絡・相談・看護ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に情報提供を行い、医療機関やご家族様と連絡を取り合い、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居時にご家族様に説明しており、ご家族様の意向を聞き取っている。	重度化した場合における指針を掲げ、入居時に家族に説明しており、開設以来、3例の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しており、研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症流行前は、定期的に入居者様や消防隊、地域の消防団の方々の協力のもと、年2回避難訓練を行っていたが、面会制限もあり、隣接施設と合同で避難訓練を行っている。また、缶詰や乾麺等の食料を常備している。	コロナ禍前は消防署員も参加して避難訓練を実施したが、現在は隣接施設と合同で実施している。食料品等を3日分ほど用意し、期限を確認しながら管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格・生活歴を把握し、プライバシーに配慮しながら接している。また、接遇やプライバシー保護について研修している。	利用者のプライバシーに配慮した声かけや対応を行っており、理念を念頭に、利用者の言動を拒否しないように努めている。また、職員会議でもプライバシーや接遇について、研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを図り、自己決定できる環境作りに努めている。言葉で十分に意思表示できない場合には、表情や反応を読み取り、できるだけ自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、入居者様の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ある程度の日課はあるが、入居者様の体調や気分に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は職員が調理を行っているが、行事等では職員と入居者様が共に作り、楽しく食事できるように心がけている。また、食後には食器拭きやお盆拭きも行っている。	その日の担当者が、ストックの食材を見て朝・昼・夕のメニューを決めている。利用者の好き嫌いに配慮しながら、キザミ食等、利用者の嚥下状況に合わせた食事を提供している。また、行事食等も提供し、楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事・水分摂取量を入居者様毎に記入し、個々の摂取量を把握している。また、個々の状態に応じて、刻みやトロミ等で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。自力でできる方は自ら行っていただき、できない方は職員の介助にて行っている。また、義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、個々の排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握している。排泄の曖昧な方でも時間や仕草を見ながらトイレ誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	排泄パターンを記録し、把握している。仕草や時間を見て誘導する等、トイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取していただくようにしたり、看護師や医療機関と相談し、薬等、一人ひとりに合わせた対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴は週2回行っている。拒否が見られる時には声がけを工夫し、時間や曜日をずらし、楽しく入浴できるように努めている。	利用者の好み等に配慮して、週2回は入浴できるように支援している。中間浴(チェアー浴)を利用し、安心・安全な入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状況や希望に応じて、自由に休息していただいている。安眠できるよう、寝具や居室の温度調整等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の説明書をファイルに綴じ、職員が把握できるようにしている。服薬時には見守りを行い、介助により、誤薬や飲み忘れがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の能力や生活歴を活かした役割を持っていただくことに努めている。また、月1回の行事により、楽しみや気分転換に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事にてドライブを企画したり、天気の良い日には玄関先のベンチにて日光浴をしている。また、病院受診等での外出支援をしている。	現在は気軽に外出できる状況ではないが、感染状況を見ながら花見や紅葉ドライブ等に出かけている。状況により2回に分けて出かける等の工夫をしている他、出かけない時は行事を計画して楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理している。ご本人様やご家族様の意向により、所持されている方もいる。ご本人様やご家族様に確認し、支払い等の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から希望があった時等、電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けを行っている。照明や室温等は不快にならないように調整・配慮している。	ホールは広く、テーブルやソファが置かれ、小上がりで寛げる空間である。エアコンや加湿器、空気清浄機等を備え、心地よく暮らせるよう配慮している。季節を感じられるよう季節毎に模様替えをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルやソファ、小上がりもあり、好きな時に自由に寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスはホームの物を利用させていただいているが、入居時には使い慣れた物を準備していただき、使用していただいている。	居室にエアコンと加湿器を設置し、温湿度を適切に調整している。また、入居前から使用していた物を持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に目印を付け、わかるように配慮している。また、手すりを設置している他、トイレは自動点灯照明があり、夜間の移動も安全にできるように配慮している。		